

価値創造の軌跡

OKIは創業以来、「進取の精神」をもって、社会のニーズに応える先進的な商品・サービスを数多く送り出してきました。そしてこの先も、情報社会の発展に貢献する価値創造を通じて、人々の快適で豊かな明日を実現していきます。

時代背景・社会課題

産業近代化の幕開け
関東大震災からの復興

戦後の復興
高度経済成長期

OKIが提供した価値

時代の先駆者として
国内通信網の整備に貢献

戦後の通信網復興に尽力
官民をあげた国産コンピューター開発プロジェクトに参画し、
総合通信メーカーとして時代をリード

社会の大丈夫をつくっていく。

1881年(明治14年)
沖牙太郎が明工舎を創業



沖牙太郎が明工舎を創業した明治初期、日本では郵便、電信、電話と、現代につながる情報通信の仕組みが次々に実用化されていきました。この通信の黎明期に、牙太郎は電信・電話の将来性を認識し、その発展に尽力。電話がアメリカから持ち込まれた4年後には、日本初の国産電話機の開発に成功します。自らの技術と発想力で道を切り開いた、この牙太郎の「進取の精神」は脈々と受け継がれ、今日のOKIがあります。

1881

沖牙太郎が明工舎を創立。国産初の電話機を開発し、内国勧業博覧会に出展

1896

国産初の直列複式交換機を
東京浪花町分局に納入、稼働開始

1902

国産初の磁石式並列複式交換機を
長崎局に納入

1918

純国産の共電式交換機を高輪局に納入

1930

自動交換機の第一号機を中野局に納入



磁石式並列複式交換機

1950

「復興のシンボル」ともいわれた4号形電話機の量産を開始

1953

ページ式印刷電信機「テレタイプライター」を発売

1961

国産初のコアメモリを使用したコンピューターを発売

1962

ホンジュラスより通信網工事を受注

1963

600形電話機の量産を開始。1971年までに累計390万台を出荷

1969

ミニコンピューター「OKITAC®-4300」を発売

1971

D10形電子交換機を電電公社に納入

1975

アメリカベル研究所とセルラー自動車電話の共同開発契約締結

1976

デジタル式感熱ファクシミリ「OKIFAX7100」を発表



600形電話機



テレタイプライター



OKIFAX7100



OKITAC®-4300

OKIの歴史については以下をご覧ください。

・OKIのあゆみ

<https://www.oki.com/jp/profile/history/>

・社史「進取の精神 一沖電気120年のあゆみ」

<https://www.oki.com/jp/profile/history/120y.html>

・創業130周年記念コラム「時代とOKI」

<https://www.oki.com/jp/130column/>

グローバル化の進展
インターネットの普及と高度情報化

変化する社会秩序、
多様化する価値観とニーズ
環境・人権などへの意識の高まり

相次ぐ自然災害、
顕在化するさまざまな社会課題
MDGs*からSDGsへ

創立100周年を迎え、
高度情報化社会に必要な
システム・商品をグローバルに提供

独自技術をもとに
ニーズに応える商品・サービスを開発、
広義の社会インフラを支える

防災や減災、非接触・非対面などの
新たな社会要請に応える商品を創出

1980

パーソナルコンピューター「if800シリーズ」を発売

1981

世界初のLEDプリンターを開発

1982

世界初の紙幣還流機能付きATM
「AT-100シリーズ」を発売

1985

オキ アメリカ社オキ テレコム グループで
自動車・携帯電話の一貫生産を開始

1986

日英自動翻訳システム「PENSEE」を発売

1996

コンピューター・テレフォニー統合システム
「CTstage®」を発売
国内初のVoIPシステムを発売

1998

OKIの全生産拠点がISO14001を取得



LEDプリンター



紙幣還流型ATM

VoIPシステム



2000

世界初、ITS路車間通信システム用ミリ波帯光
ファイバー無線伝送システムの開発に成功

2002

EMS事業を開始

2003

次世代航空通信ネットワークルーターを
アメリカ連邦航空局へ納入

2005

リアルタイム地震防災システムを開発

2006

世界初の、異種材料間の薄膜接合技術
「エビフィルムボンディング」を
実用レベルで量産化に成功

2008

業界初5年間無償保証のプリンター
「COREFIDO」シリーズを発売

2009

複数国紙幣の取り扱い可能な全世界市場向け
紙幣還流型ATM「ATM-Recycler G7」を開発



COREFIDO



ATM-
Recycler G7



初期の
EMS工場

2010

羽田空港新国際線旅客ターミナルへ
情報KIOSK端末「SUKIT™」と
「次世代自動化ゲートシステム」を納入
国連グローバル・コンパクトに参加

2014

920MHz帯マルチホップ無線ネットワークを利用した
「河川監視システム」を開発

2018

イノベーション・マネジメントシステム
「Yume Pro」スタート

2019

OKIグループ環境ビジョン
「OKI環境チャレンジ2030／2050」を制定
TCFDへの賛同を表明
AIエッジコンピューター「AE2100」を発売
人手不足の解消を実現する
サービスロボット「AIエッジロボット」を開発

2020

非接触での画面操作を可能にする
「ハイジニック タッチパネル™」を開発



AIエッジコンピューター
AE2100



AIエッジ
ロボット



ハイジニック
タッチパネル